



2024年1月5日

各 位

会社名 株式会社Q P S 研究所
代表者名 代表取締役社長 CEO 大西 俊輔
(コード：5595、東証グロース市場)
問い合わせ先 代表取締役副社長 COO 市來 敏光
(TEL. 092-751-3446)

令和6年能登半島地震への対応に関するお知らせ

2024年1月1日16時頃に発生しました、石川県能登地方を震源とする「令和6年能登半島地震」によりお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。皆さまの安全と一日も早い復興をお祈り申し上げます。

当社は、このような激甚災害における救難や被害把握に資する画像データの提供に向けて、小型SAR衛星コンステレーションの構築を進めております。この度においても、官公庁を中心とする顧客からの要請に応じて、当社小型SAR衛星によって取得した画像データを提供しており、報道機関等に対する一部画像データの無償提供も実施しております。

詳細につきましては、添付のニュースリリースをご参照ください。

なお石川県能登地方には、当社が有する施設等はなく、当社における人的被害や業績に及ぼす重大な影響はみられておりません。今後、開示すべき事象が発生した場合には、速やかに情報開示いたします。

(添付)

令和6年能登半島地震エリアに関する衛星画像提供について

以上

令和6年能登半島地震エリアに関する衛星画像提供について

この度の令和6年能登半島地震でお亡くなりになられた方のご冥福をお祈りするとともに、ご遺族の皆さまにお悔やみを申し上げます。また、被災された皆さまに謹んでお見舞いを申し上げます。

株式会社 QPS 研究所（福岡市中央区、代表取締役社長 CEO：大西 俊輔、以下 QPS 研究所）は、この度の対応として弊社保有の小型 SAR^{*1} 衛星 QPS-SAR で能登半島エリアを観測しており、国の行政機関、報道機関に画像提供しております。なお、今回観測した画像データは防災科学技術研究所が運営するウェブサイト「防災クロスビュー（<https://xview.bosai.go.jp/>）」においても掲載しておりますが、災害対応等のために画像使用をご希望の方は弊社コンタクトページ（<https://i-qps.net/contact/>）からご連絡いただければ順次ご案内させていただきます。

二次、三次災害対策として、また、安全に行動するための情報として活用いただくために、観測を続けて参ります。被災された地域の皆様の安全と一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

<「防災クロスビュー」内画像について>

- ① <https://nied-drsite.maps.arcgis.com/apps/webappviewer/index.html?id=2ed19fbec714f6caa86f9a4300450da>



（画像：防災クロスビューより）

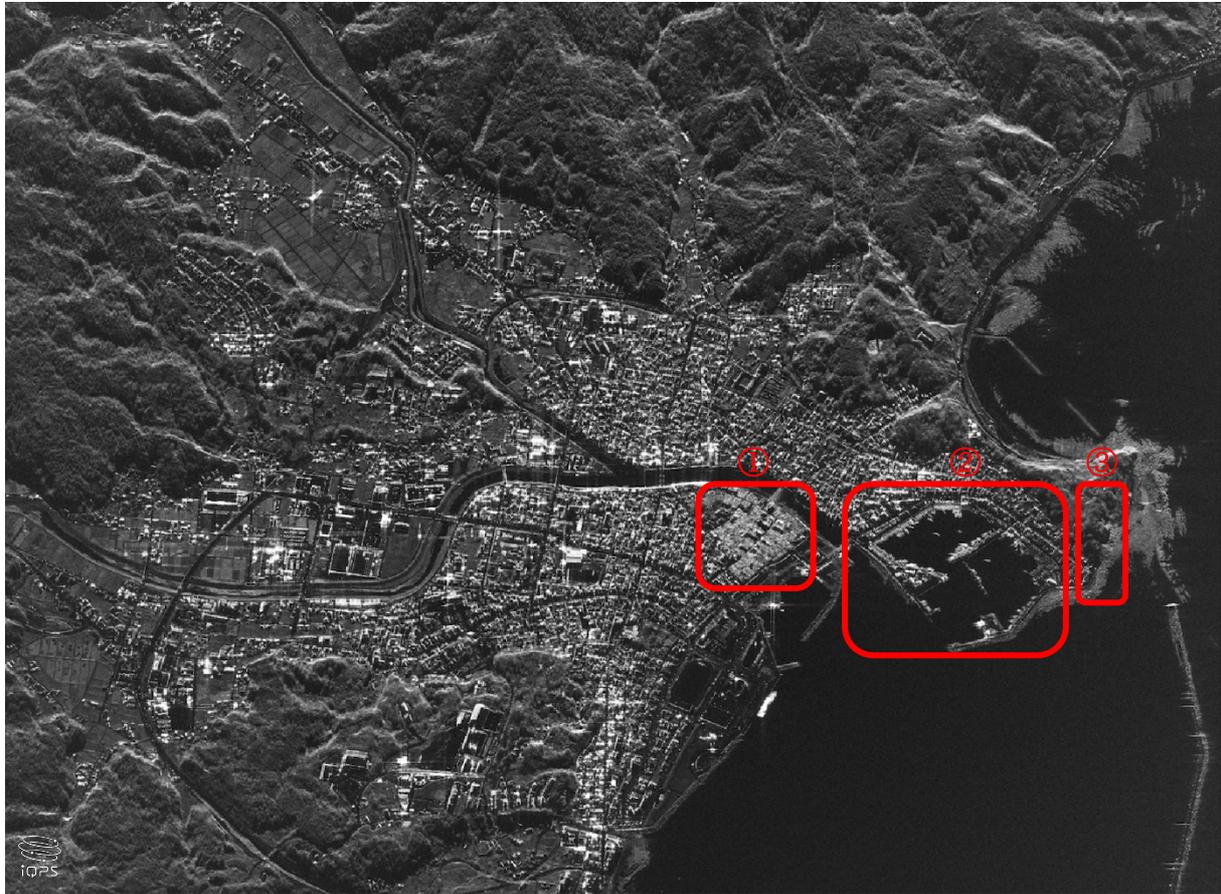
ページ内では、右側に以前 2023 年 12 月 14 日 13:17 に QPS-SAR6 号機が石川県珠州市を観測していた画像、左側には、同じく QPS-SAR6 号機が災害発生後の 2024 年 1 月 3 日 13:19 に同エリアを観測した画像が掲載されています。SAR は地表にマイクロ波を照射し、反射して返ってきた信号を分析することで地表の画像を得るレーダーで、昼夜や天候に関係なく地表の状況を把握することができる点が特長です。マップ上のスライダーを左右に動かすことで比較して見ることができます。上記赤枠は実際に土砂崩壊があった箇所、②が拡大画像となります。

② ①内の赤で囲った土砂崩壊があった箇所の拡大です。

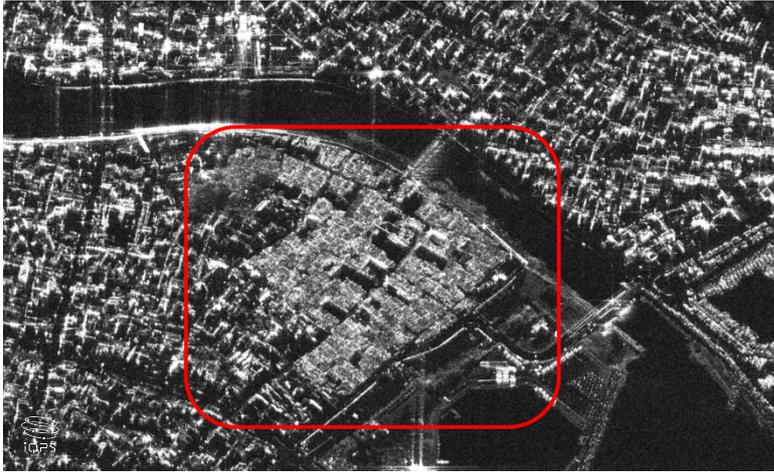


<提供画像について>

下記のサンプル画像は石川県輪島市エリアを観測した画像の一部です。(南が上になります)



観測日時	2024年1月5日(金) 1:10 a.m. (日本時間)
観測場所	石川県輪島市
分解能	アジマス分解能 46cm x レンジ分解能 39cm (オフナディア角 36.8度)
画像説明補足	QPS-SARは分解能1.8mの通常モード(ストリップマップモード)と分解能46cmの高精細モード(スポットライトモード)の観測ができ、この度はスポットライトモードでの観測となります。



左の画像：①朝市通り / 大規模火災エリア
右上の画像：②港 / 転覆した船など確認できます
右下の画像：③斜面崩壊、土砂流出箇所

このリリースの資料上では画像は小さくなっており、圧縮をかけて容量を軽くしているため、弊社ホームページのニュース (<https://i-qps.net/news/1614/>) にて掲載している画像もご覧いただければ幸いです。災害対策活用の解析のためのデータや高解像度のものが必要な場合は弊社コンタクトページ (<https://i-qps.net/contact/>) からご連絡ください。

<会社概要>

社 名：株式会社 QPS 研究所 (東証グロース市場 証券コード：5595)
本社住所：福岡市中央区天神 1-15-35 レンゴー福岡天神ビル 6 階
代 表 者：代表取締役社長 CEO 大西俊輔
創 業：2005 年 6 月
U R L： <https://i-qps.net/>
事業内容：人工衛星、人工衛星搭載機器、精密機器、電子機器並びにソフトウェアの研究開発、設計、製造、販売

QPS 研究所は 2005 年に福岡で創業された宇宙開発ベンチャー企業です。名前の QPS とは「Q-shu Pioneers of Space」の頭文字を取っており、九州宇宙産業の開拓者となること、更には九州の地より日本ならびに世界の宇宙産業の発展に貢献するとの思いが込められています。その名の通り、九州大学での小型人工衛星開発の技術をベースに、国内外で衛星開発やスペースデブリへの取り組みに携わってきたパイオニア的存在である名誉教授陣と若手技術者・実業家が一緒になって、宇宙技術開発を行っています。

QPS 研究所は従来の SAR 衛星の 1/20 の質量、1/100 のコストで 100 kg 台の高精細小型 SAR 衛星「QPS-SAR」の開発に成功し、現在は商用機 2 機を運用し、夜間や天候不良時でも高分解能・高画質で観測できる世界トップレベルの SAR 画像を提供しています。この後も毎年複数機の衛星を打上げ、2027 年度には 24 機体制、そして最終的には 36 機による衛星コンステレーション^{※2}を構築し、平均 10 分ごとの準リアルタイム地上観測データサービスの提供を目指しています。また、QPS 研究所の事業は、創業者たちが宇宙技術を伝承し育成してきた北部九州を中心とする、全国 25 社以上のパートナー企業に力強く支えられています。

(※1) SAR (合成開口レーダー)：Synthetic Aperture Radar の略。地表にマイクロ波を照射し、反射して返ってきた信号を分析することで地表の画像を得るレーダー。雲や噴煙を透過し、昼夜や天候に関係なく地表の状況を把握することができる点が特長。

(※2) 複数の人工衛星によって、高頻度な地球観測を可能とするシステム。(コンステレーションは「星座」の意。)

プレス関係の方のお問い合わせ先
株式会社QPS研究所 〒810-0001 福岡県福岡市中央区天神1-15-35 レンゴー福岡天神ビル 6階
担当名：有吉・久原 Email: press@i-qps.com